



バーベキューで和気あいあい

○加入促進・組織活性化事例

自治会活動を通じた 若者世代との交流の促進



いつでもきれいな広場

市場自治会の青年部として1995年に発足したのが市場九五会です。発足のきっかけは、地域の通学路や公園の清掃活動を行うために、自治会とは違う活動団体を設けようという声があがったことにあります。会は自治会本会を担う父親世代の後継者が中心となり、発足当初は10数名の会員でありましたが、現在は自治会内50世帯のうち、約半数の世帯に当たる23人の会員で活動を行っています。主な活動内容は、発

事例の概要



子どもからお年寄りまで集っての交流

足のきつかけとなった通学路や公園の草刈りや清掃、相模原市内で唯一の天満宮がある広場の整備を中心として、他に会員や地域の親交を深めることを目的とした、バーベキューや親睦旅行等も行っています。

特徴・ポイント

会を継続していくために、「敢えて「形式的な会」にせず、「誰でも気軽に参加できる雰囲気づくり」や「まが人が集まることに意義を見出す」ことを会継続の基本理念としている

のが市場九五会の特徴です。有事に会員を招集することはありますが、定例会のような会議は設けず、年次行事に従って会員が集まった際に次回行事の相談を行っています。そのため、行事を楽しむ穏やかな雰囲気の中で、会員相互の意見交換や親睦が自然と深められています。このようないことが可能な背景としては、何世代にも渡って住んでいる世帯が多く、その中で築かれてきた人々の縁の深さや、地域としての一体感が挙げられます。

課題・展望

自治会の青年部としての位置付けであるため、発足当初は50代前後の勤労世代が中心でありましたが、それ以降は新規会員が増えにくく、現在は50代後半から60代後半の世代が中心となってしまっています。そのため、親組織となる自治会本会と参加層が重なってきており、跡継ぎ世代を中心とした今後の活動の担い

手の確保が重要な課題となっています。地域内居住者への参加呼び掛けを行うものの、特に市外に通勤している方は通勤が長時間掛かることなどから、参加が困難な状況となっています。現在、近隣の自治会との交流による活動の輪の広がりも視野に含め、より広範な参加呼び掛けも行っていると

団体の基礎DATA



団体名◇市場九五会（市場自治会）
 創立年◇平成7年
 世帯数◇50世帯
 代表者名◇久野 良行さん



問い合わせ▶久野 良行さんまで
 電話 042-778-0179

体験・取材した職員から一言！



生涯学習課
 加藤 敬

みんなが顔を合わせれば、定例会議を設けずとも、今後の予定等の案件が決っていくという点に、地域全体でつながり、顔見知りであることのメリットを感じました。



納税課
 折笠 真代

開発がすすみ新興住宅が増えている地域と比較して、昔ながらの良き地域力が強く残っていました。地域の方々が一つの大きな家族のように温かい雰囲気があり、このような場面から地域の絆が生まれていくことを実感しました。



小山二丁目自治会のホームページ (URL:http://oyama2.com/)

○加入促進・組織活性化事例

参加しやすい自治会づくり

事例の概要

小山二丁目自治会では、夏祭り、ねぶた祭りへの参加、運動会、防犯パトロール、清掃活動など多方面にわたり、活発な活動を行っています。

活動の軸となっているのは、会長を中心とした本部役員や7つの専門部会ですが、そのほかに、自治会活動に関心が薄いことや定住者が少ないことから未加入世帯が多くなりがちなマンション、賃貸アパートの居住者を「特別会員」、地域内の事業者を「賛助会員」、常時活動への参加が難しい会員などを「協力員」として、それぞれの会員の立場やライフスタイルに合わせて、活動への参加や協力ができる方法を定めて、自治会活動を盛り上げています。

特徴・ポイント

マンションや賃貸アパートなどの入居者を対象とした、「特別会員」からは、活動には参加しない代わりに、防犯灯の維持管理など受益相当分について、経済面での協力がされています。



小山二丁目自治会の皆さん

ます。また、建物完成段階からの自治会加入のお願いや管理会社と協議をして入居者に自治会加入を条件にしてみようなどの取り組みを行い、自治会加入率アップを図っています。

また、大型ショッピングセンターが出店する際には、「賛助会員」として地域貢献の約束を交わしており、その一環として、相模原納涼花火大会の鑑賞会の開催にあたっては、場所（屋上駐車場の開放）、景品の提供などが支援されています。

また、積極的に活動したい会員や本部役員OB、活動に常時参加でき

ない会員も、イベントごとに参加できるように「協力員」として登録することができ、自治会活動に参加しやすい環境を整えて、地域に根付いた活動を展開しています。

課題・展望

小山二丁目自治会では、自治会の活動をよく知ってもらい、会員とのつながりを深めて、活動に参加しやすくなるために、ホームページ、メールを利用しています。ホームページでは、お知らせ、活動予定、イベントの写真などを掲載し、活動予定の把握や会員同

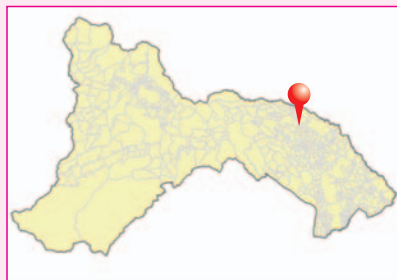


ホームページに掲載されているねぶた製作の様子

士のコミュニケーションに役、買っています。

メールは本部役員や申し込みのあった会員への連絡方法として、通常の連絡はもとより早く周知する必要があることに対して効果を発揮しています。また、会議録などは、ホームページへの掲載に加え、メールでも送付しているため、会員内で情報を共有することができ、自治会活動の透明性が保たれ、自治会内の風通しが良くなっています。また、データ化されたことによる情報整理や役員の引継ぎなど、自治会運営の負担の軽減などに役立っています。

団体の基礎DATA



団体名◇自治会法人小山二丁目自治会
 創立年◇昭和40年
 世帯数◇630世帯
 代表者名◇武田 邦雄さん



問い合わせ▶武田 邦雄さんまで
 電話 042-773-9330

体験・取材した職員から一言！



小田急多摩線
 新交通推進課
 峰岸 康弘

今回紹介しきれませんでしたでしたが、好事例の多さや世代を越えてのコミュニケーションなど、小山二丁目自治会のチームとしての結束力、実行力には、驚きました。また、わざわざ取材のために作成していただいた活動概要のプレゼンテーション（パワーポイント）には、感激しました。

今後は、地域に密着した自治会活動をモットーに、避難所運営協議会の体制確立など防災活動の充実、これからの地域を担う子どもたちの地域活動への参加促進などに取り組み予定です。



夏祭りの様子



夏祭りにおける自治会加入者受付

○加入促進・組織活性化事例

自作パンフレットで自治会加入者(増)を！

事例の概要

千代田2丁目自治会においては、自治会加入者の減少が深刻な問題となっています。全482世帯中自治会加入世帯は184世帯であり、現在の加入率は38%に留まっています。

近年、集合住宅の増加に伴い世帯数は増加していますが、自治会加入世帯数は減る傾向にあり、この現状を打開すべく約10年前より自治会独自で加入案内用パンフレットを作成し、未加入世帯に配布をしています。

平成20年4月と5月は加入促進重点月間として自治会構成役員である15人の組長（内女性6名）により未加入世帯を確認後、必要部数を印刷し各組長から未加入世帯に配布を行



自治会加入促進パンフレット

いました。現在パンフレットは一般世帯向けのみですが、今後は事業者向けパンフレットも作成し、世帯加入だけでなく事業者加入も図っていきたく考えています。

特徴・ポイント

千代田2丁目自治会のパンフレットは、自治会の活動内容を大きく4つの項目に分類し、見やすい構成となっています。その中でも特に町内親睦や防犯・防災対策のPRに重点を置いています。例えば、夏祭りや運動会などの年間行事への参加を求めていることや、安全の確保のため防犯灯の設置を積極的に行っていることなどを掲載しています。今後は更に防災に力を入れて、高齢者や体の不自由な方の対応が出来るような対策をしていかなければなりません。そのためにも、自治会加入者を増やすことで、災害弱者の情報を把握していきたいと考えています。

また、自治会会員約70名で構成する「球友会」では、ソフトボールやバレーボールなど様々な球技を通して親睦を図っています。また、毎月第1月曜日には70歳以上の方で「ひまわり会いきいきサロン」を実施し、高齢者の交流の場となっています。

課題・展望

自治会独自のパンフレットを配布し加入促進を行っていますが、実際はなかなか成果が上がっていない現状があります。原因としては若い単身世帯の増加や集合住宅の増加が挙げられます。若い世代においては、自治会への関心が薄れてきており、また定住しない傾向があるため自治会への加入は難しいと考えられています。集合住宅によっては、管理者が一括して居住世帯の加入を行ってくれるところもありますが、全体としての加入率は大変低い状況です。

今年度初めて独自に各組における集合住宅居住者の自治会加入・未加入調査を行いました。今後はこの調

査をもとに、未加入者や集合住宅居住者への自治会加入促進に向けた新たな取り組みが期待されます。

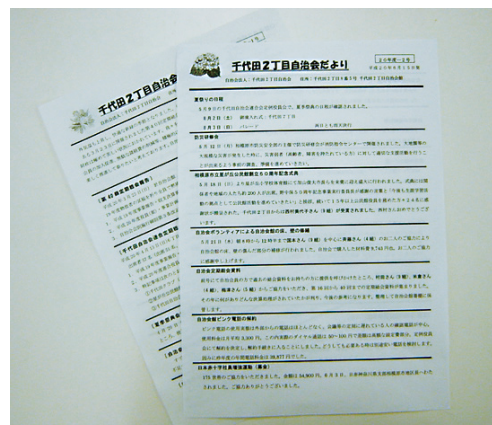
団体の基礎DATA



団体名◇千代田2丁目自治会
創立年◇昭和43年
世帯数◇184世帯
代表者名◇長岡 義弘さん



問い合わせ▶長岡 義弘さんまで
電話 042-755-1861



千代田2丁目だより

体験・取材した職員から一言！



駐車場対策課
五郡 太

今回の取材を通して自治会加入率の低下の実態を知ることが出来ました。集合住宅の自治会加入は自治会からの勧誘だけでは難しい現実があり、今後は集合住宅管理者の理解の上に居住者への一層のPRが求められると感じました。また、夏祭りの取材を行い、活気あふれるお祭りを体感できました。千代田地区全体が一体となったパレードは圧巻で、子供から大人までお祭りを楽しんでいる姿を見て地域のパワーを感じました。



全戸配布の広報紙

○加入促進・組織活性化事例

みんなをつなぐ広報紙

事例の概要

昭和42年に入居が開始された相武台団地には、5つの自治会があり、その連合組織が相武台団地連合自治会です。その大きな規模と高い加入率を背景とした活発な活動は、役員をはじめとする各委員による強固な組織運営と、「防犯パトロール」などの各種活動への積極的な参加により維持されていますが、それを可能としているのは、定期的に自治会内の隅々まで情報を伝達し、その周知の徹底を図っている広報活動です。



防犯パトロールの様子

特徴・ポイント

団地のみで連合自治会を構成していることと、そのほとんどが分譲であることが要因となっており、加入世帯が、団地内の全2540戸（内100戸は空き室）のうちの2100戸（世帯）、加入率が86.1%という高さをほこり、会長以下10人の役員、27人の運営委員、94人の棟委員、306人の階段委員からなる堅固なピラミッド型の組織運営を行っています。

そして、この大規模、高加入率を誇る連合自治会の潤滑油として強力に威力を発揮しているのが、定期的に自治会内の隅々まで情報を伝達する広報活動です。

とりわけ、広報紙については、A4版の6ページから8ページの構成で、6人の編集委員で年間6回、偶数月の15日に毎号2150部を発行し、全戸配布しています。

記事内容は、活動報告、行事の案内、役員等の紹介、お知らせなど盛り沢山で充実しており、写真を多く取り入れて工夫が凝らされたレイアウトも特徴

で、読みやすく情報がよく伝わってきます。

このほかにも「運営委員会だより」を毎月1回発行することで、急なお知らせの周知などに対応しており、うまく両者が補完し合っています。

これらが、毎月1回、20名前後で広い団地内を1時間かけて隈なくまわる「防犯パトロール」や、夏の恒例行事の一つで、2日間で4000人もの来場者を集める「盆踊り大会」などの成功に寄与しています。

課題・展望

広報活動をはじめ、現在の活発な活動があるのは、役員などの熱意と努力によるところが大きいのですが、活動自体がボランティアであり、仕事が多岐にわたるため、その担い手としては、仕事などを引退したシニア世代にどうしても頼らざるを得ないという課題があります。

また、その時々ので役員のやる気などに左右され、役員が替わると活動内容

も大きく変わってしまうなどの課題もありますが、組織としての継続性を維持するための工夫をしています。

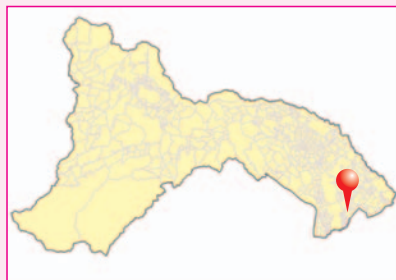
その他固有の問題として、団地の建設から40年以上経過し、居住者の高齢化が進んでいるとともに、団地の世代も多いため、新たな生きがいづくりや、コミュニティ形成における課題もあります。

しかし、自治会活動への参加を一つの契機として、団塊の世代や若い世代をいかに引き込むことができるかが、今後の組織と活動を維持していく大きな鍵となります。活動への参加を促進する上でも、自治会活動を紹介し、関心を持ってもらえるための広報活動の充実が、今後ますます重要になってきます。



県道の清掃

団体の基礎DATA



団体名◇相武台団地連合自治会
創立年◇昭和42年
世帯数◇2,100世帯
代表者名◇佐藤 あつ子さん



問い合わせ▶事務部長 戸田さんまで
電話 046-257-3251



盆おどり大会

体験・取材した職員から一言！



戸籍住民課
梅津 玄

多彩な活動が、役員の方々の強い熱意と責任感によって支えられており、それだけに、現在の自治会全体を取り巻く厳しい環境とは一見無縁とも思いましたが、高齢化や後継者不足の問題など、共通の悩みも抱えていることがわかりました。



住宅課
新妻 裕美

世帯数が多いことを活かし、数多くイベントを開催されていることが印象的でした。自治会をまとめる秘訣は、皆さんの力を活かせる適切な役割分担と、住民全員へ連絡が行き届く組織力だと感じました。



自治会の変遷と活動が一目で分かる、中丸変遷史（平成19年12月刊行）

○加入促進・組織活性化事例

自治会加入は自治会を知ってもらうところから！

事例の概要

麻溝地区中丸地域は、昭和初期は2世帯で構成され、昭和27年の自治会発足当ても少世帯の地域でしたが、昭和59年〜平成4年2月の区画整理事業の完成以降急速に世帯数が増加しました。平成元年には58世帯だった加入世帯は、平成19年には540世帯と転入者が増加し、自治会加入率は90パーセントと市内でも高い加入率となっています。

中丸地区では、転入情報を日頃から集めるように努め、未加入世帯には訪問して加入案内を配布します。一戸建ては外側から確認出来るため分かりやすく、ほぼ全世帯が加入していますが、世帯の出入りが多いアパートなどは捉えにくく、自治会に関心が少ない世帯もあり、課題は残っています。

特徴・ポイント

未加入世帯を無くすためには、新たに転入してくる世帯の情報収集が不可欠です。中丸地区は情報の入手と発信

の効率向上のため、現在5つの地域に分け、各地域に副会長を一人置いて活動しています。また、全体を79班に分けています。各副会長や班長が日頃から地域を見て回り、世帯の転出入の情報を捉えるようにしています。また、毎月発行し、全世帯に配布又は回覧をしている自治会の広報誌に、新たに転入してきた世帯及び転出世帯の情報提供のお願いを掲載しています。

転入世帯があれば、副会長と一緒に訪問して自治会の案内をします。そのときに加入をいきなり求めるのではなく、訪問時には、自治会では何をするのか、自治会費は何に使うのか等について説明し、納得してから加入してもらうようにしています。転入世帯には、ゴミ置場の維持管理や掲示板の設置、また防犯灯の定期的な取り替えなどをしていることを説明します。その際に、地域の安全や災害時の支援と協力についての説明をすると納得して加入してくれることが多いようです。

また、加入してすぐ月割等で自治会費を徴収するのではなく、半月程度は無料にしています。まず加入をして自治会のことを知ってもらい、翌月から払ってもらうようにすると円滑な関係

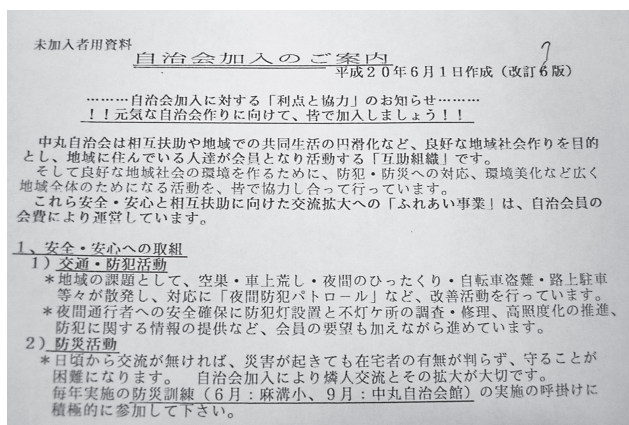
が築けます。アパートについても、入退室の関係で2ヶ月程度の空き部屋があることを想定し、その分自治会費を割り引くなどの工夫をしています。こうした柔軟な対応と、地道なPRが高加入率に繋がっています。

課題・展望

自治会未加入世帯があることで一番困るのは災害時です。加入・未加入に關係なく、非常時には支援を行う必要があります。その支援に必要な情報を把握するためにも本来は全世帯に加入してもらいたいと考えています。

また、加入世帯であってもプライバシーの關係があり、世帯構成人員とその状況まで把握しているわけではありません。障害を持つ方や高齢の方がどの世帯に住んでいるかといった情報は、日頃の交流の中で話をして分かることが多いものです。今後は、そうした支援を要する災害弱者の人数と場所を把握していくことが必要だと考えています。

また、自治会では公園・広場の清掃・ふれあい祭り・防犯パトロールなどの場面で地域の人間と協力し、交流を深めています。こうした活動に若い世代の人間が多く参加し、自治会役員の経験してもらいたいと思っっています。中丸自治会では、地域を發展させていくためには長期的な視点が必要だと考え、平成元年以降は自治会長及び役員を短期持ち回りではなく、同じ人間が複数年以上務めるようにしています。若いうちに役員を経験し、自治会



自治会の活動が詳しく書かれているチラシ

団体の基礎DATA



団体名◇中丸自治会
創立年◇昭和27年
世帯数◇540世帯
代表者名◇仙波 正男さん



問い合わせ▶自治会長 仙波さんまで
電話 042-778-1622



活動拠点の中丸自治会館（平成4年11月完成）

の状況を把握した人材に、中丸自治会を發展させていってほしいと考えています。

体験・取材した職員から一言！



市民協働推進課
北村 工匠

会費や自治会活動についての明確な説明を行い、相手の意向を尊重して加入促進活動を行っていることが、効果的だと感じました。地域の歴史も丁寧に説明していただきよかったです。



市民協働推進課
鈴木亜由美

自治会がどんな活動をしているかを知り、納得してから加入することはとても大切だと思います。広報活動を重視し、状況に併せて細やかな対応や工夫をしていることが素晴らしいと思いました。